

【個票：RI】

性質	記載内容	防護スタイルの区分
共通 <small>全ての性質で共通する留意事項</small>	<b>【使用する測定機器】</b> <b>&lt;γ線のみ&gt;</b> ○空間線量：γ線の検出が可能な測定機器を用いること (RDS-30、RadEyeG-10、ICS-313、ICS-321、TCS-161、TSC-171等) ○汚染検査：γ線の検出が可能な測定機器を用いること (RadEyeB-20等) <b>&lt;β線のみ&gt;</b> ○空間線量：β線の検出が可能な測定機器を用いること (RadEyeB-20、ICS-313等) ※β線の測定に電離箱式を用いる際は、プローブの窓キャップをはずす等、取扱方法に留意 ○汚染検査：β線の検出が可能な測定機器を用いること (RadEyeB-20等) <b>&lt;γ線&amp;β線&gt;</b> ○空間線量：γ線の検出が可能な測定機器を用いること (RDS-30、RadEyeG-10、ICS-313、ICS-321、TCS-161、TSC-171等) ○汚染検査：β線の検出が可能な測定機器を用いること (RadEyeB-20等) (緊急検査の場合はγ線用の測定機器でも可)	
	<b>【消火・救助・救急】</b> ○使用可能な消火剤：燃焼物に応じた消火剤 ○飛散・拡大防止や容器破損のおそれがあるため棒状での直接注水は不可	
水溶性	<b>【消火・救助・救急】</b> ○水溶性のため、消火残水等の水による汚染拡大に留意	N/F
	<b>【汚染検査・除染】</b> ○水溶性のため、 <b>水的除染しやすい一方、汗等や除染残水等の水分</b> による汚染拡大のおそれ に留意	
可燃性	<b>【消火・救助・救急】</b> ○可燃性のため、火気及び早期の延焼拡大防止等に留意	
	<b>【汚染検査・除染】</b> ○可燃性のため、火気に留意	
水反応	<b>【消火・救助・救急】</b> ○水と化学反応するため、原則注水は避けることに留意	
	<b>【汚染検査・除染】</b> ○水と化学反応するため、 <b>水的除染は原則実施せず、乾的除染を基本とすること</b> に留意 ※やむを得ず <b>水的除染</b> を実施する場合は、物質の暴露部分に十分留意	
熱分解	<b>【消火・救助・救急】</b> ○熱により分解し <b>毒性・可燃性のガス等(物質名)</b> が発生するため、火気及び早期の延焼拡大防止等に留意	
	<b>【汚染検査・除染】</b> ○火災等の熱に反応するため、火気に留意	
人体影響	<b>【消火・救助・救急】</b> ○人体影響の可能性があるため、防護装備の選定を考慮 ○人体影響の可能性があるため、要救助者・負傷者の容体変化に留意	N/F又はP/PF
	<b>【汚染検査・除染】</b> ○人体影響の可能性があるため、暴露に留意	
毒劇物	<b>【消火・救助・救急】</b> ○毒物or劇物のため、防護装備の選定を考慮 ○毒物or劇物のため、要救助者・負傷者の容体変化に留意	P/PF
	<b>【汚染検査・除染】</b> ○毒物or劇物のため、暴露に留意 ○毒物or劇物のため、被ばく・汚染リスクに加え <b>毒(劇)物</b> としての性質も考慮した除染が必要であることに留意	
その他	<b>【消火・救助・救急】</b> ※上記の性質(水溶性～化学毒性)のいずれにも属さない特記事項があれば記載	N/F
	<b>【汚染検査・除染】</b> ※上記の性質(水溶性～化学毒性)のいずれにも属さない特記事項があれば記載	

【個票：装備機器・発生装置】

種類	記載内容	防護スタイルの区分
装備機器	<b>【消火・救助・救急活動】</b> ○装備機器の動作状況(使用中か否か)、線源容器の遮へい状況(シャッター閉鎖状況等)を施設関係者から情報収集 ○シャッター等が開放されている場合は、放射線の放出に留意 ○装備しているRI、装備機器の構造・照射窓の位置及び破損状況等に留意 (以下、装備RIの物理的・化学的性質を記載) ※線源の「物理的・化学的性質」は、個票 [RI] を参照	装備しているRIと同じ ※消防活動上の留意事項は、 <b>個票 [RI]</b> と同じ内容を記載
発生装置	<b>【消火・救助・救急活動】</b> ○発生装置の動作状況(使用中か否か)について施設関係者から情報収集 ○発生装置が作動している場合は、電源を落とすよう関係者に指示 ○発生装置が作動している場合は、放射線の放出に留意 ○電子線・陽子線・重粒子線はα線・β線と同様に透過力が弱い、γ線・中性子線が二次発生することに留意	N/F